令和７年度　東京都立足立西高等学校　学校経営報告

校長　　都　倉　里　利

【今年度の取組目標等に関する自己評価】

１　学習指導

・観点別評価について適切に実施されるようになり、定例教科会の実施等を通して評価の在り方に関する教員の意識向上が見られた。
・補習や課題を含めた生徒への働きかけについて、全教員が粘り強く継続的に対応し、単位習得および進級・卒業につなげることができた。
・適切な進路選択を目的とした「進路実現システム」を組織的・計画的に運用し、参加生徒数は目標値を上回るなど、学校全体の取組として定着した。
・ICT を活用した授業展開は増加しているものの、一人１台端末の効果的な活用は十分とは言えず、スマートフォンでの使用が中心となっている。
・英語検定（全員受検）や数学検定等を実施し、生徒の学習意欲向上を図った。
・年々若手教員の比率が増加する中、新規採用教員の育成については教科を越えて多くの教員が関わり、相互の授業見学も積極的に行われた。

２　生活指導（重点目標）

・粘り強い遅刻指導を実践したものの、一部の生徒で遅刻回数が増加し、結果として年間延べ遅刻回数は増加した。
・生徒提案によるごみ箱設置について検討したが、議論が十分に深まらなかったことや、足立区と学校の分別ルールの違い等により、成果にはつながらなかった。
・自他を尊重する態度の育成については、各種集会等で継続的に指導を行った。特別指導件数は昨年度より増加し、その多くが喫煙に関するものであった。一方、他者の安全に影響を及ぼす可能性のある事案は減少している。
・４月からの自転車への交通反則通告制度の導入を踏まえ、交通安全意識の向上を図り、自転車乗車マナーやヘルメット着用について、引き続き声掛けおよび指導を継続していく。
・生徒理解委員会を中心とした定期的な生徒情報の共有が定着し、情報共有と個に応じたきめ細かい対応が実践できた。
・**数値目標（括弧内は昨年度）**

年間遅刻延べ回数	：7,603 回（6,567 回）
生徒の特別指導件数	：18 件（11 件）

３　特別活動・部活動（重点目標）

・体育祭・文化祭は生徒主体での活動を目指した。気温上昇への対応や内容の充実等について引き続き検討と改善を行っていく。
・部活動加入率は増加傾向にある。顧問の適切な介入により生徒間トラブルを未然に防ぐことができたことがあった。ミーティング等を通して自己理解・他者理解の促進につながった。
・韓国研修旅行は定着しており、江北地区地域発表会において生徒による成果発表を行った。今後も継続し、さらなる充実を図る。
・ボランティア活動への参加を継続的に呼び掛け、少数ながら積極的に参加する生徒がいた。

・**数値目標（括弧内は昨年度）**

部活動加入率	: 70.9％（68.0％）
学校行事（体育祭・文化祭）満足度肯定回答	: 90.4％（85.0％）
ボランティア活動参加生徒延べ人数	: 50 人（60 人）

４　進路指導（重点目標）

・授業外講習の一環として、年間を通じて生徒に働きかける「進路実現システム」を実施した。講座数の増加に伴い、参加延べ人数は昨年度を上回り、特に 1 年生の希望者が増加した。
・本校の特色であるインターンシップを計画通り実施し、1 年生への進路意識の動機付けとした。
・外部機関と積極的に連携し、進路について学ぶ機会を十分に確保した結果、進路指導に関する生徒の満足度は向上した。
・資料作成等に関する事故はなかったが、進路決定に伴う意思疎通については、進路部・学年・生徒・保護者・管理職の連携をさらに深める必要性が認められた。

・**数値目標（括弧内は昨年度）**

進路決定率	: 93.9％（95.6％）
進路指導満足度肯定回答	: 92.3％（90.0％）
授業外講習参加生徒延べ人数	: 744 人（607 人）

５　募集・広報活動

・ホームページの更新回数は昨年度よりやや減少した。部活動をはじめとする諸活動の情報発信は依然として少ない傾向が見られた。
・学校説明会の参加者数は、外部会場では微増したものの、本校実施回については開催月によるばらつきがあり、全体としては例年よりやや少なかった。
・オールあだち文化祭等への部活動参加により、本校の特色や魅力を PR する機会を得ることができた。
・入学選抜において本校を志望する生徒数に大きな変動はなかったが、広域通信制高校等の増加により、わずかな減少傾向が見られる。

・**数値目標（括弧内は昨年度）**

ホームページ更新回数	: 132 回（155 回）

６　学校経営・組織体制（重点目標）

・時差勤務や育児休業等の活用は進んでいる一方で、勤務時間が長時間に及ぶ職員も多い。生徒対応に要する時間の削減は困難であり、さらなる業務縮減策の検討が必要である。
・体罰、個人情報管理、会計処理等に関する事故はなく、ゼロを維持することができた。
・企画調整会議および職員会議のペーパーレス化を実施した。
・若手教員への支援はメンターを中心に全教員体制で行われており、校内の雰囲気は良好である。
・支援を要する生徒への理解に努め、スクールカウンセラーと密接に連携した対応を行った。

・**数値目標（括弧内は昨年度）**

教員の年次有給休暇取得日数（年間平均）	: 13.8 日（14.4 日）
勤務時間外在校時間が月 45 時間を超える延べ人数	: 170 人（159 人）
特別支援教育に関する委員会開催回数	: 10 回（10 回）

【課題と改善策】

・スタディサプリを導入し自宅学習の充実を図っているが、活用は十分とは言えない。今後は授業や講習においても積極的に活用し、到達度確認や生徒所有 PC の活用につなげていく。
・生徒の自己肯定感向上を目的として、英検全員受検等、各種検定試験の受検機会を引き続き拡充する。
・大きな事故はないものの、自転車事故は一定数発生している。交通反則通告制度の導入を踏まえ、ヘルメット着用について粘り強く指導するとともに、生徒部・学年・警察と連携した指導体制を強化する。
・遅刻指導および服装指導については、生徒部・学年を中心に全教員で授業中も含めて継続的な声掛けを行い、改善を促していく。
・継続的な見守りを要する生徒が複数在籍している。スクールカウンセラーの複数配置等を有効活用し、相談体制の一層の充実を図るとともに、生徒が安心して学校生活を送れるよう、ソフト・ハード両面から組織的に改善を進める。
・希望者を対象とした韓国の高等学校を中心とする国際交流を継続するとともに、韓国以外の高等学校との交流についても模索する。
・教育課程の見直しを行い、少人数指導の内容、適切な選択科目の設置、修学旅行の時期・行先等の学校行事について精査する。
・「進路実現システム」は本校の特色として定着しており、今後も講座内容の充実を図り、より適切な進路決定につなげていく。
・図書館のさらなる活用を目指し、図書館専門員と連携して読書活動を一層充実させる。
・若手教員が自発的かつ積極的に相互研修を行える環境整備を進める。